

KEYAK!

1月号

年始の挨拶回りで聞いた親戚の親戚のはなしです。家族でそのお宅に遊びに来た男の子は、大人同士での話にしょっちゅう割り込み、ボクの話聞いて！ねえっ！ボクはね、ねえったら！ボクの話聞きーてったら！と帰るまでずっとその調子で腕をゆすられるは顔を無理くり自分のほうへ向けさせようとするはで大人同士の大事な話もできず参っちゃったよ。とおじさんは言ってました。けっこう正月あるあるなのかも知れませんね。聞き役に徹することのできるじいじかばあばがいればよかったのですが・・・。

聞けばその子のお父さんは毎日夜遅くまで仕事らしく、お母さんも毎日のことでは閉口してしまうかも知れませんね。時間に限りのある大人にとっては子どもの話は聞いてもたいして意味がなかったり、内容云々に重きを置いてしまうとそりゃ大人の話のほうが大事な話です。ヘタすると、「聞いても損」的な扱いになってしまいがちです。私もそんなケースで全てその子話を聞けるかと言われればどうか分かりませんが、少なくとも大損はしないと思いますし、むしろ少し得をする時のほうが多いと思っていますくらいです。つたない表現で一生懸命しゃべるところや言い間違いや伝えたい思いみたいなのところに焦点をあてると結構面白いのです。

この子の場合だって、もしかしたらただ言いたい、ただ聞いてほしい、ただそれだけなのかもしれません。やりとりを探さなくても、こっちはうんうん、そっかそっか、と目を見てうなづいているだけで、彼は十分な充足感を得られるような気がします。〔相手が聞いてくれた〕という思いは、きっと〔相手の話も聞こう〕という思いもやがて育んでくれることでしょう。あと、おじさんありがとう、という気持ちも。

年頭のあいさつで職員に「ありがとう」の感謝を人に限らずモノにおいても子どもたちの前で実践していこう、という話をしました。なので純粋なウチの職員たちのことなので、水道さんいつも水を出してくれてありがとう、電球さんいつも明るくしてくれてありがとう、椅子さん座らせてくれてありがとう・・・などと口走っている先生を見かけても、このひと大丈夫か!?!と思わないでくださいね。やがて子どもたちも、モノを大切にしたい気持ちや限りある資源について考えてくれるかも知れません。

職員一同、今年もよろしく願いいたします。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・ごっこ遊びなどにおいて、イメージを共有するだけでなく、ストーリーを次々とイメージしあそびをふくらませていく
- ・描くことや作ることの基本的な技術を習得することによって、さらに興味をもって楽しめる（経験の幅をひろげる）
- ・冬の自然事象に興味を持ち、友達と発見したり触れたりしてあそびに取り入れて楽しむ

4歳

- ・クラス、グループでひとつの目的を共有できる
- ・自分なりの力を発揮しながら、目的にむけて工夫したり繰り返し取り組んだりする
- ・冬の自然にかかわって遊びながら、様々なことに気づいたり感じたりする

5歳

- ・やりたい遊びが増え、友達を誘い相談しながら工夫、発展させていく
- ・見通しを持ってある期間集中して取り組める
- ・自分達で大まかなスケジュールを考え、それに沿って生活できる